

一般社団法人日本調理科学会 2022年度第4回理事会議事録

日 時：2023年1月21日(土)14：00～16：00

場 所：オンライン開催

出席者：綾部園子会長，新井映子筆頭副会長，真部真里子副会長，平尾和子副会長，佐藤靖子，高澤まき子，藤井恵子，小西史子，和泉秀彦，中澤弥子，久保加織，北尾悟，坂本薫，杉山寿美，岡本洋子，秋永優子，田原美和，三神彩子，三宅裕子，宮藤章（以上理事20名）
飯田文子，高村仁知（以上監事2名）

欠席者：阿久澤さゆり，杉山久仁子，柳沢幸江，郡田美樹（以上理事4名）

本日の理事会は，定款第33条理事の過半数の出席(理事24名中20名出席，欠席4名)を満たし成立。

【配信資料】

資料1：一般社団法人日本調理科学会 2022 年度第 3 回理事会議事録（案）

資料2：同 2022 年度 編集委員会報告

資料3：同 2022 年度 情報管理委員会報告

資料4：同 次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会報告

資料5：災害時メニュー開発に関する研究委員会報告

資料6：多様な調理法と家庭料理の伝承研究委員会報告

資料7：創立 60 周年記念事業「調理科学の百科事典」について

資料8：2022 年度日本調理科学会「若手研究者発表奨励賞」選考結果報告

資料9，10：2023 年度事業計画（案）・予算（案）

資料11：2023 年度代議員総会開催等

資料12：2023 年度代議員総会 講演会

資料13：日本調理科学会 2022 年度大会決算及び余剰金

資料14：2023 年度大会

回収資料：新入会員（2022 年 9 月 1 日～2023 年 1 月 20 日入会申し込み者）一覧

1. 議長，議事録作成人，署名人選出

前例により，議長は綾部会長，議事録作成人は田原庶務担当理事，議事録署名人は綾部会長，新井筆頭副会長，飯田監事，高村監事とする。

2. 前回議事録（案）確認

2022 年度第 3 回理事会議事録（案）（資料 1）が確認され，了承された。

3. 議事

【報告事項】

(1) 業務執行理事からの業務執行状況に関する報告の件

綾部会長，新井筆頭副会長，平尾副会長，真部副会長より業務執行状況についての報告がなされた。

(2) 常置委員会からの報告の件

1) 編集委員会

資料 2 に基づき，新井副会長より 2020 年度以降の論文審査状況について，2021 年度は減少傾向にあったが 2022 年度の投稿数は現在 28 件で，コロナ前の状況に戻りつつあるとの報告があった。また，学会誌第 56 巻 1 号に次の①から③について掲載予定との報告があった。①官能評価に関する研究倫理に

について、2025 年度からは研究倫理審査委員会の承認が必要になる。2024 年度までは、現行の通りチェックリストによる研究倫理の確認で投稿は可能である旨を告知する。②家庭料理研究の投稿については、特別枠を設けて査読を行う体制をとっているが、本制度は 2022 年度をもって終了となる。③共同第一著者の記載について、第 56 巻より著者から申請のある際は、責任著者のほかに第一著者の記載も可能とする予定である。希望のある際は、投稿時に編集委員会へ相談する。

2) 情報管理委員会

真部副会長より、資料 3 に基づき次の 4 件について報告があった。①2022 年度大会研究発表要旨を 9 月 1 日に J-STAGE に公開した。②ホームページの管理について、事務局とともにお知らせなどを適宜更新した。③メール・ニュースについて、2022 年 9 月 1 日以降、15 件、発行した。④転載許可の申請に対し事務局と協力しながら対応した旨の報告があった。

(3) 特別委員会からの報告の件

綾部会長より、刊行委員会および記念出版委員会の報告があった。

1) 刊行委員会

クッカーサイエンス 第 10 回「ふくらむ加熱調理ーコロッケのはれつ・ドーナツのきれつー長尾慶子著」が 8 月に刊行された。現在 2 名の方が出版の準備を進めているとの報告があった。

2) 創立 50 周年記念出版委員会

「全集 伝え継ぐ 日本の家庭料理（全 16 巻）企画・編集 一般社団法人日本調理科学会」出版を終了し、データベース化を進めている。2023 年 3 月の完成を予定していたが、作業が遅延しているため、8 月頃に完成予定との報告があった。

(4) 研究委員会からの報告の件

1) 次世代に伝え継ぐ 日本の家庭料理研究委員会

委員長の平尾副会長より、資料 4 に基づき、第 3 回理事会終了後から現在までの報告がなされた。運営委員会を 3 月に閉会するというので、総まとめ報告書の作成に取り組んでいる。第 3 回の理事会以降、運営委員会を 4 回開催し、10 回の全国配信を実施した。さらに、CD の制作、活動終了後の Web サイト制作・更新も進めている。論文審査委員会（仮）の設立及び家庭料理の学会誌への連載等については、委員会の閉会の前に、編集委員会新井委員長とご相談しながら進めていきたいとの報告があった。

2) 災害時メニュー開発に関する研究委員会

綾部会長より、資料 5 に基づきこれまでの経緯についての概要説明がなされた。今後は、災害時にその地域で炊き出しができないか、支部の会員から炊き出し要請をしてもらい、NPO キャンパーが出動するような仕組みになるよう、研究委員会組織についての提案がなされた。こちらは、審議事項に追加して審議する事となった。

3) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会

委員長の綾部会長より、資料 6 に基づき、経緯、概要、進捗状況等についての説明がなされた。検討事項となっていた研究費用について、前回の理事会では詳細を検討すれば本部から研究補助を行う方針については承認されている。そのため、①研究経費については、調査票の印刷、通信費あるいはこれから実験で官能評価を行う場合の試料、あるいは消耗品、報告書作成費ということで各支部および本部に 10 万円の経費補助をお願いしたい。もう一つは②日本調理科学会誌への掲載料の補助（2 万円まで）を 2027 年 3 月末日（上限として 20 件）とし、両方合わせて 110 万円（2023 年度 70 万円、2024 年度は 40 万円）の補助を依頼したいとの説明があり、審議事項で審議することとなった。

(5) 創立 60 周年記念事業「調理科学の百科事典」の件

綾部会長より、資料 7 に基づき、創立 60 周年記念事業の一環として「調理科学の百科事典」刊行に

向けての経緯等について概要説明がなされた。進捗状況、今後のスケジュールの説明がなされ、刊行は2027年5月(予定)、創立60周年記念の事業として2027年の大会でお披露目する方向であるとの報告があった。

(6) 2022年度若手研究者発表奨励賞の件

新井筆頭副会長より、資料8に基づき、選考の概要および結果について時系列に説明がなされた。こちらについては既に学会誌に掲載され、経緯についてもメール配信済である。前年度に倣い、本年度も得票数の多い4名を受賞候補者に選定したとの報告があった。

【審議事項】

(1) 新入会員承認の件 回収資料

綾部会長より、回収資料に基づき、2022年9月1日～2023年1月20日入会申込者について説明があり、確認を行い、承認された。

(2) 2023年度事業計画(案)・予算(案)の件

綾部会長より、資料9・10に基づき、2023年度事業計画(案)・予算(案)が提案され、審議を行った。資料9の総務関連事業については新井筆頭副会長、企画・広報関連の事業は平尾副会長、編集委員会関連の事業は新井筆頭副会長、情報管理委員会関連の事業は真部副会長、規程委員会は綾部会長、刊行委員会について綾部会長、研究委員会関連の事業は綾部会長、渉外関連の事業は綾部会長、支部活動に関する事業は綾部会長からの説明がなされた。引き続き、真部副会長より資料10に基づき、2023年度収支予算(案)の説明がなされた。2023年度予算(案)は前年度と比較して、情報管理費を減、研究委員会費は増、会議費はオンライン開催を想定して減との事である。事業計画(案)・予算(案)は、Zoom ミーティングの投票機能を活用して実施され、いずれも承認された。

(3) 2023年度代議員総会等の件

1) 第1回理事会の開催の件

綾部会長より、資料11に基づき2023年度第1回理事会開催について、日程と開催方法、審議事項についての説明がなされ、承認された。

2) 代議員総会の開催の件

綾部会長より、資料11に基づき代議員総会についての説明がなされた。開催方法については、審議の結果、オンラインで開催することとなった。また、代議員総会開催通知については、①電磁的方法により開催の招集をしてよいか、②出席できない代議員は電磁的方法により議決権を行使する事について、いずれも承認された。

3) 講演会の件

資料11・12に基づき、企画・広報理事の平尾副会長から説明がなされた。日程、開催方法(オンライン・Zoom ウェビナー)、講演会講師(案)及び演題(仮題)、要旨(フォーマット有)、プログラムについて承認された。

(4) 2022年度大会決算及び余剰金の件

近畿支部の坂本理事より、2022年度大会(ハイフレックス方式)が無事終了した旨のお礼が述べられ、資料13に基づき、大会決算及び余剰金についての説明がなされた。科学研究費補助金、実行委員会の先生方、開催校の先生方のご協力もあり経費を抑えることができた旨の報告があった。今後、大会の会計監査について、本年度の大会会計担当、支部選出の監査役、次年度の実行委員会会計担当者等と引継ぎを兼ねてオンラインで開催したいとの説明がなされた。審議・確認後、承認された。

(5) 2023 年度大会の件

杉山理事より、資料 14 に沿って説明がなされた。2023 年度大会は、現地開催で行われる（ハイブリット方式ではない）。日程についての詳細は検討事項となっている。9 月 9 日に公開学術シンポジウム、10 日に公開学術講演を予定している。今回、NPO キャンパー活動報告は行わず、災害時メニュー開発委員会説明会のみ記載する。研究発表募集要項で登録方法の文言についての提案があり、いずれの事項も承認された。

(6) 2024 年度大会の件

関東支部藤井理事より、鎌倉女子大学を会場として開催するとの報告があり、承認された。

(7) 2023 年度学会賞選考委員会の件

新井副会長より、既に学会誌で募集しているとの報告があった。なお、選考委員については、綾部会長より庶務担当理事（新井副会長、岡本理事、高澤理事、坂本理事、杉山理事、田原理事）に依頼がなされ、承認された。

(8) 災害時のメニュー開発に関する研究委員会の組織について

綾部会長より、資料 5 の研究委員会の組織についての説明があり、委員長に企画担当の平尾副会長、委員に各支部支部長、参加を希望する会員、アドバイザー（仮）に石井克枝先生とする提案がなされ、承認された。

(9) 多様な調理法と家庭料理の伝承研究委員会研究経費について

各支部および本部に 10 万円の経費補助、日本調理科学会誌への掲載料の補助（2 万円まで）を 2027 年 3 月末日（上限として 20 件）とし、両方合わせて 110 万円（2023 年度 70 万円、2024 年度は 40 万円）の補助について、承認された。

【その他】

(1) 各種支部報告（2022 年度事業報告・決算、2023 年度事業計画・予算）の提出の件

綾部会長より、各種支部報告（2022 年度事業報告・決算、2023 年度事業計画・予算）を 2023 年 3 月 31 日までに事務局へ提出するよう依頼がなされた。

(2) 学会賞候補、奨励賞候補、功労賞候補の推薦の件

新井副会長より、学会賞候補、奨励賞候補については、推薦書を添えて 3 月 31 日までに事務局へ提出、功労賞候補については各支部からの推薦依頼がなされた。

(3) 次回理事会の件

綾部会長より、2023 年 4 月の監査（日程未定）終了後～5 月上旬にオンラインで開催を予定しているとのお知らせがあった。

議事録署名人

会長

綾部園子

筆頭副会長

新井映子

監事

飯田文子

監事

高村仁知